

2017年（平成29年）度街かどケア滋賀ネット 事業報告

○小規模多機能ケアの拡充

- ・小規模多機能ケアを実施する事業所の立ち上げ支援については、「地域と繋がれ、と言うけれど・・・」をテーマに研修会を実施し、地域との繋がり方について3事業所から取り組み報告後、意見交換を行った。又すでに運営されている事業所への支援については、くらし支え合いアドバイザー事業での相談があった。
- ・在宅看取り支援の推進については、小規模多機能型居宅介護事業所秋桜舎が主催した、在宅看取り推進セミナー「在宅看取り、医療介護の連携が在宅生活の安心感を増す」に後援し、在宅看取りの推進を図った。

○地域支え合い活動の推進（滋賀県「くらし支え合いNPO・地域活動支援事業」を中心として）

- ・支援講座1回目には慶応義塾大学の堀田さんから、地域共生社会の実現に向けて、国が目指す方向性や、国内外の助け合い・支え合いの事例を紹介、2回目にはNPO法人「はなのいえ」の内海さんから、富山型デイサービスや地域サロン、農園と障害のある人達や地域の人達とつくるレストランの実践報告をして頂いた。また3回目、4回目では、草津市のNPO法人宅老所心の村田さんから地域居酒屋や居場所について、大津市の小金沢歯科診療所の小金澤さんから実践報告をして頂いた後にグループワークにて身近な地域の各団体・個人で取り組める生活支援の活動内容について意見交換を行った。
- ・くらし支え合い活動支援フォーラムでは、滋賀県、草津市、滋賀地方自治研究センターとの共催で、BIWAKO 曼茶羅寄席として、県内の助け合い・支え合い活動団体の出展と説明を行った後、33の出展団体の2分間のアピール、ワークショップにて、NPO法人エトコロの中島さんの司会進行で、「みんながワクワクしながら考える(10年後を考える)」をテーマに意見交換を行なった。
- ・アドバイザー出張支援事業において、認知症の理解を推進する講座や相談、引きこもりの若者支援等、生活困窮者支援の活動についての受入相談があった。その他イモ発電等、福祉分野以外での活動に障がい者や高齢者の参加を支援するための出前講座も行った。

○“ならでは”の働きの見える化事業（ダイトロン福祉財団障害者福祉・京都新聞助成金）

- ・ダイトロン福祉財団障害者福祉・京都新聞社助成金で採択された
- ・2015年度の「“ならでは”の働きの見える化」についての予備調査、2016年度の「ゆったり感」についての本調査に引き続き、分析のための追加調査を行った。
- ・「いきいき生活支援員に多く見られる“ならでは”の働きの見える化に向けての追加調査」として、「いきいき生活支援員」の一層の雇用促進に向けて、県内4事業所において追加調査を行った。
- ・“ならでは”の働きの見える化、数値化・客観化をするために、調査項目を「ゆったり感」のみに絞り、本調査に加えて精密な分析のために時間設定、場面設定を厳密に行い、障害のないスタッフを被写体とした場面等の追加撮影を行った。
- ・分析は、示された分析項目（指標）について、「主観的分析」、「客観的分析」の両方を行った。

- ・なお、調査の倫理審査は、標記検討委員会に委員として参加されている龍谷大学に依頼をした。
- ・過去3年間の調査結果を当ネットの野村より滋賀県社会福祉学会で報告した。
- ・今回の追加調査の報告は、別途準備をした。

○外国人介護職員養成研修

- ・平成13年から始まった知的障害者介護技能等養成研修の実績が評価され、「滋賀県外国人介護職員養成事業」として滋賀県より委託を受け、今年度3年目の開催となった。
- ・一昨年度の反省、要望を受けて、本年度も講義を土・日の日中の開催とし、開催場所も講義・演習共に同じ場所（SHIPS）とした。受講生の負担の減少ができ、事務局の運営もスムーズとなった。
- ・養成研修の対象者は、フィリピン・ブラジル・中国・タイ・ペルー・ボリビアの6か国の在日外国人20名であった。
- ・受講生の殆どが他業種で就労中であり、加えて家庭を持った人も多かったが、全ての受講生20名が修了試験に合格された。
- ・なお、この研修の運営には、コーディネーターや補助講師（通訳）が付き、また各講師の外国人の方への講義上の配慮もあり、比較的スムーズに運営が出来た。
- ・日本語教育部分を受け持った、SHIPS（多文化共生交流センター）との連携協力も大きな力となった。
- ・修了試験後は、SHIPS（多文化共生交流センター）と連携して、一定程度の就労支援を行った。
- ・過去3年間の研修結果を当ネットの楠神より滋賀県社会福祉学会で報告した。

○「小規模多機能型居宅介護の集い」事務局業務

- ・今年度も県下約65ヶ所の全事業所に案内を送り、平均16名の参加を得て3回の集いを実施した。
- ・今年度は、高島市、長浜市、大津市を会場として実施し、1回目はメディケアさくらの本多さん、澤田さんより説明後、グループワークにて医療との連携・課題について意見交換を行った。
- ・2回目は、自主事業と共同開催でし、「その人らしさをハグむ」をテーマに、おげんきハグニティの岡原さん、木村さんに講演して頂いた。また3回目は、六匠 時間の奏の見学後、グループワークにて、施設内で看取りができる環境作りについて意見交換を行った。
- ・集い参加の事業所に対して、街かどケア滋賀ネットへの加入を呼びかけている。

○街かどケア滋賀ネット自主事業

- ・5月22日の総会時研修で、「地域と繋がれと、言うけれど・・・」をテーマに、加楽の楠神さん、長等ほたるの家デイサービスの立入さん、日吉台デイサービスぬくとぼの木村さんより、事業所立ち上げ時の工夫、経緯の報告後、質疑応答を行った。
- ・「小規模多機能型居宅介護の集い」との共催で、「その人らしさをハグむ」をテーマに、山口県周防大島おげんきハグニティの岡原さん、木村さんに講演して頂いた。尚、滋賀県介護支援専門員連絡協議会研修の翌日に開催し交通費・旅費を折半するなどの協力を得た。

○会員メリットの創出と財政の安定化

- ・各事業のスリム化について、報告書の作成を簡素化することにより、事務局・担当役員の負担を軽減することができた。
- ・謝礼金の寄付（役員・会員）について、自主的に寄付をいただけた方もあった。
- ・各事業での会費徴収（非会員を中心に）について、自主事業の資料代は徴収出来たが、非会員の参加者が少なく、多くの額ではなかった。
- ・ホームページの積極的活用（更新）は継続的に行った。
- ・フェイスブックを活用し、必要に応じ情報提供し一定程度の効果があった。
- ・情報提供等のメール配信の徹底はかなり可能になったが、メール配信が不可能なところが残った。
- ・会費を滋賀銀行自動引き落としも選択できるようにし、会員継続の促しと事務局負担の軽減を図れるように取り組みを開始した。

○その他

- ・役員会への欠席なし（必ず代理出席を）については、一部努力が見られたが、出欠の連絡をいただけない方もおられた。
- ・各事業担当役員を決めたが、一部の役員と事務局のみで、事業の企画・準備・当日運営・事業報告をしていた。次年度は役員がそれぞれの事業の企画から関われるように改善をしていく。
- ・「宅老所・グループホーム全国ネットワーク」との連携や「同近畿ブロック」での活動については、三役、事務局を中心として行った。
- ・県・市町行政、その他団体・ネットワークとの連携・協働については、各委託事業や自主事業で深めた。